

令和4年度

専門学校 静岡工科自動車大学校

学校評価書（学校関係者評価）



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 古澤 浩一

静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 河田 憲一郎

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 具体的取組 | 評価 | 課題と改善策 | 評価委員会の意見 |
|---|---|----|---|--|
| ・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか | 経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 自動車エンジニアとして基礎・基本である知識・技術を確実に身に付けるような教育を豊富な種類の教材と多様な学科構成により行っている。 | 4 | 自動車エンジニアとして「安心、安全」を意識した行動が身に付くように教育を徹底していく。 | 特になし |
| ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 中期構想として第10次中期経営計画(2022～2024年度)を策定し計画を推進している。 令和4年度はカーボンニュートラルを目標とした電動車に関するカリキュラムを編成し、学則に反映させた。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3つのポリシー(DP, CP, AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をしてホームページ上でも公開している。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育人人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。 | 3 | 特になし。 | 他校では1級課程の明確な人材育成目標、2級課程の明確な目標を学校評価の中に取り入れている本校も評価項目を取り入れてはどうか。 |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

ゲーム感覚で戦略マネジメントゲームを体験したのち会計知識を勉強することは学生にとって有効であると感じる。今後の授業カリキュラムに導入できるか検討を行います。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|--|--|------|---|--|
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。 | 4 | 自動車業界の環境が大きく変化しており、その影響が学校運営にも及んでいる。経営環境の変化に柔軟に対応できるよう情報収集、問題の共有化を推進したい。 | 特になし |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。 令和5年度より複数校の運営になるため、両校の運営が円滑に進むよう事業計画を立案した。 | 4 | 特になし | 特になし |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか | 毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。組織運営や意思決定においてはリーダーの職責が増している。 | 3 | メンバーによる報連相が時々リーダーを飛び越えることが散見されるので、都度指導していく。 | 特になし |
| ・人事、給与に関する規程等は整備されているか | 服務規程により人事、給与については整備されている。令和3年度より人事評価システムを改定し、職務基準の見直し及び人事評価の公開を行っているが、考課者、被考課者とも業務や目標に対する意識の向上が見られるようになった。 | 4 | 人事評価システムの改定は概ね良い方向に機能している。 今後さらに検証を重ね、個人目標と運営目標のベクトルを合致させるとともに教職員のモチベーションの維持向上に努めたい。 | 浜松工科自動車大学校ができたことにより、職員が減少しその分の補充対応について |
| ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。 | 4 | 特になし | 特になし |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。 | 3 | 運用面において職員の意識やモラルに問題が見られるケースがあるため事例研究に関する研修会を計画したい。 | 特になし |

| | | | | |
|----------------------------|---|---|---|------|
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。 | 4 | 特になし | 特になし |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。また Google Workspace を活用した教育システムが機能しつつある。 | 4 | 情報システムのトラブルに対応できる職員が少ないため、対応できる職員の育成を行っていく。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

職員の補充に関しては、卒業生からの職員採用は企業様との関係から難しさを感じています。そのため在校生の希望者や学内からの希望者を募ります。または、高校生の本校募集活動の際に、教員志望の学生がいる場合は面談等で適性を確認し、本校企業奨学生として在籍期間の学費補助対象者とし卒業後本校教員として採用します。

(3) 教育活動

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|---|---|------|---|---|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。 | 4 | 定期的に見直しを行っており、特に問題はないと感じている。 | 特になし |
| ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 教育到達レベルと学習時間をシラバスに明記し HP 上でも公開している。現在の学習時間は国土交通省が定める基準並みとしてあるため、限られた時間の中で最大限の効果が得られるよう活動を行っている。 | 4 | コロナ禍による社会環境の変化に見舞われたが、IT ツールを活用し柔軟に対応するスキルを向上させることができた。今後は、アフターコロナに向けた対応が必要であると考えられる(Web から対面への移行)。 | 特になし |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が定める指定基準に沿って、学期末ごとに全職員で見直しを行い、業界との格差が発生しないようにしている。 | 4 | 令和3年度から国際オートメック科のカリキュラムが変更となり、運用後の検証を行っている。また、システム工学科3～4年のカリキュラムが変更となり、今後、検証が必要となる。 | 特になし |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。 | 3 | キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題となっている。令和4年度より発足した新たな研修制度に従い各種研修を受講しているが、成果が出るのは今後のことと考えられる。 | 新任職員の教育について5年間くらいの期間で、授業に関するスキルアップ及び熟練職員とのペアにより教科書以外のスキルについても育成プログラムを作成することをお勧めします。 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、シラバスの見直しを行った。 | 4 | 今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善したい。また企業からの意見により実施している整備作業アンケートの結果を踏まえ、授業に反映していきたい。 | 特になし |

| | | | | |
|--|---|---|--|--|
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか | すべての科においてインターンシップを実施している。また、企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、大型自動車実習を実施しておりシラバスにも明記している。 | 4 | 企業側も学校教育に協力的であり、特に問題はないと感じている。 | 学生の大型自動車に対するイメージでは、力が必要というイメージを強く抱いているようようですが、現状の大型はいろいろな設備があり、必ずしも力が必要ではなく仕事を行うことができることを学生に紹介してはいかがでしょうか。 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。 | 4 | アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。目標は上回っているが、昨年度よりも低下している。対面授業の割合が増加していることが一因と考えられ、今後の対応策を考える必要がある。(1・2学期平均79.37%) | 特になし |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 学校関係者評価委員会により評価を行っている。 | 4 | 学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。 | 特になし |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 成績評価基準は学校側の主導により明確に定められており、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。 | 4 | 学生便覧(教務規定掲載)に明記されており、特に問題はないと感じている。 | 特になし |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。 | 3 | コロナ禍で中止となっていた資格試験も順次再開されつつあり、順調に良い成績を修めることができている。学内実施の資格講習もリモート授業やITツールを活用しながら効率良く教育を進めている。 | 特になし |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか | 第一種養成施設の指定基準に準拠するため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。 | 3 | 一級自動車整備士を取得している職員の割合は増加しているが、専門学校教員としてのキャリアが短い職員が増えているように思える。定着率を高めるような対応策が必要だと考えられる。 | 特になし |

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 自動車整備業界からだけでなく、自動車製造業からの職員を採用することができ、より実践的な教育を提供する組織とすることができた。 | 3 | 社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。今後は他の企業とも連携し優れた教職員の確保に努めたい。 | 特になし |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか | 自動車整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。 | 3 | FD 推進会議を中心に計画し、昨年度までと比較し研修の回数が増加している。研修内容も多岐に渡り、また、全職員が受講することで情報の共有化を図ることができた。 | 国交省のカリキュラム基準とミスマッチが起きている可能性があるが、それを踏まえつつ本当に企業が求める資格や技能を習得させることが必要ではないかと思います。(アルミ溶接) |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。 | 4 | 令和3年度に定められた研修制度に従い、本年度は経験年数の短い職員を対象として研修を受講してもらったが、予定していた研修をすべて受講することができた。研修後は研修発表を実施し、他の職員と研修内容を共有することができた。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

養成施設制度の範囲内でのカリキュラム内容を遵守しつつ、企業が求めている要望に応えられるよう養成を実施していく。またすぐに取り入れることは前向きに実施していきたいと思います。

(4) 学修成果

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|-----------------------------|--|------|---|----------|
| ・就職率の向上が図られているか | 無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。コロナ禍でメーカーガイダンスの実施は見送ったが、各企業のガイダンスは例年通り実施し、面接指導や書類作成に関する指導は担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。 | 4 | 一部の企業に応募が偏る傾向が見られる。採用担当者の人柄やガイダンスの内容といった一時的な要素に左右されることが大きいと感じる。学校としては客観的な企業の情報を発信することで、多数の企業に興味を持ってもらえるよう指導している。 | 特になし |
| ・資格取得率の向上が図られているか | コロナ禍で登校を止める中、リモートで昨年度と同様に資格試験対策を行ったが本年度は例年と比べ合格率を下げってしまった。 | 3 | 学生の資質を見極めながら、成果の上がる学習方法を常に検討し、合格率の向上を目指す。 | 特になし |
| ・退学率の低減が図られているか | 年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めた。 | 3 | コロナ禍の影響でアルバイトができず、経済的に困窮する留学生が増え、授業料未納のため出席停止となり、意欲をなくす学生が多数出た。留学生に対する同窓会の奨学金制度適用拡大を図ったが、さらなる支援制度の開拓が必要である。 | 特になし |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。 | 3 | コロナ禍ではあるが、今年度は企業との交流の機会が少しずつ増え、入手できる情報が増加した。本年度は各企業内で技術大会なども行われ卒業生の活躍を見学することができた。ガイダンスの機会に採用担当者へ確認すると、留学生の活躍についての話が増えてきた。 | 特になし |

| | | | | |
|---|--|----------|---|-------------|
| <p>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p> | <p>企業の採用担当者や企業実習の担当者等に対して、学生時代に学ばせたい事を聞いてみると、知識や技術の習得以外に、人と人とのコミュニケーションを選択する方が多い。一方、本校の卒業生はコミュニケーションについては概ね良い返答をいただいている。</p> | <p>3</p> | <p>学生に対しては、自動車整備業や自動車製造業はすべてお客様あつての業種であることを理解してもらい、適正なお客様対応ができる接客授業を行い育成していく。</p> | <p>特になし</p> |
|---|--|----------|---|-------------|

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

一級整備士合格率39/39名 100% ※2年連続100%を達成、二級整備士合格率(日本人)138名 ガソリン99.3%、ジーゼル100%
(留学生) 55名 ガソリン94.5%、ジーゼル94.5%

国家試験の学習成果が100%になるよう教職員が一丸となって全力で学生をサポートして行きます。

(5) 学生支援

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|--------------------------|---|------|--|--|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | <p>本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。</p> <p>導入から6年目となった電子求人システムへの完全移行も順調に進めることができた。</p> | 4 | 企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差があるが、問い合わせに対し柔軟に対応できている。 | 特になし |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | <p>学生からの相談(ハラスメント等を含む)は、主にクラス担任が対応し、それを主任がカバーする。また、女性教員や保健室、FD・CR 室や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。</p> | 4 | 学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせることができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応している。 | 弊社では社員に対し、内部窓口相談や外部窓口相談があり社員は2つの窓口を使い、悩み事や相談事を行うようになっている。 学生の相談窓口は学校内と外部の相談窓口があるか |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | <p>高等教育修学支援制度による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。</p> | 4 | 各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を実感していると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。 | 特になし |
| ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか | <p>常勤の看護師の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用(傷病の申し出)状況、薬の使用状況は毎日管理され、心の健康(メンタル相談)にも配慮している。</p> | 3 | 看護師が勤務していない時間においての対応に課題があるが、総務課と担任(担当)が対応し看護師の不在時間をカバーしている。 | 特になし |

| | | | | |
|---|---|---|--|---------------------------|
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか | クラブ活動などの課外活動は授業時間数が多い中でも支援できる体制になっているが、昨年度に続き今年度もコロナウイルスの感染拡大の影響により活動計画に沿った一部の運営ができていない。 | 3 | 学生に対してのクラブ活動支援は対面で活動することが前提となっていたが、このような環境下でも参加し楽しむことができる工夫が求められている。 | 課外活動にVITALレースに対する支援体制について |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか | 1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。(留学生を除く) | 4 | 1人暮らしの補助、通学費支援により募集活動に効果を発揮している。本年度募集から在学中の支援となる交通費支援ではなく、保護者が期待する入学前の支援となる入学金減免(半額)に変更した。 | 特になし |
| ・保護者と適切に連携しているか | 例年、後援会総会後に担任と保護者との個別面談を実施している。また、電話連絡等により保護者に学生状況の報告を行い、相互理解に努めている。 | 4 | 実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。 | 特になし |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。 | 4 | 卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。 | 特になし |
| ・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。 | 4 | 業界関係者が気軽に企業ニーズを発することができる体制(HP等)を入試・進路課を中心に整えたい。 | 特になし |
| ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。 | 4 | 各種の講義、講話の内容を継続的に改善し、さらに効果と魅力がある内容にしたい。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・外部カウンセラーによる相談窓口を設置するなど前向きに検討を行います。
- ・VITALレース参戦に対し自動車システム工学科 開発コースとクラブ活動の一環として実施する。参戦に対しては学生自身が企業様にプレゼンを行いスポンサー契約結び、参戦費用を捻出していきたいと考えています。

(6) 教育環境

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|--|--|------|--|----------|
| ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入している。今年度はテストベンチエンジン3台、灯火ボードパネル13台を整備した。 | 3 | 施設・設備の規模や整備内容は充実しているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかかっている。 | 特になし |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか | 教育課程表に定められたインターンシップは実施したものの、任意で行うものはコロナ禍により中止した。海外研修は中止したが国内研修を実施した。 | 3 | コロナ禍においては学生がリモートで受講(参加)できるリモート授業教材の開拓を今後も推進したい。 | 特になし |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 令和4年に災害対策対応マニュアルを改訂した。緊急時の教職員及び学生への連絡、安否確認体制についてグーグルを利用し確立した。安否確認等訓練を複数回実施、習熟度を高めた。 | 4 | 学生の安否確認に使用しているグーグルフォームの取り扱いについて、一部の職員に不慣れな場合が見られ、習熟が必要である。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

多くの家庭が学費の捻出に苦慮しており、研修旅行を令和6年度4年生で終了いたします。

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|------------------------------|--|------|---|--|
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | EV シフトされる業界を伝え、今後必要となる一級整備士へのシフトが完成した。また、利用者数が安定している企業推薦制度もニーズに合わせた企業への提案も行っている。また、中学生への働き掛けも継続している。 | 3 | 整備士希望者拡大に向けた広報活動と新設される浜松工科自動車大学校の募集をバランスよく行う必要がある。エリア特性を理解し、両校を定員充足するための様々な活動を計画どおり展開したい。 | 特になし |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。 | 4 | ホームページの「活動紹介」を利用し教育活動を分かりやすく伝えている。本校の各種情報も継続的に発信したい。 | 昨年度高校訪問を静岡工科自動車大学校は重視しているということですが、その成果はどうだったのか |
| ・学納金は妥当なものとなっているか | 教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている | 4 | 入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定済み。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

高校訪問は地道な活動になるが、学生の進路決定において高校の先生の進路指導に大きく左右されることがよく分かりました。そのため、高校訪問は有効であると考えており、継続して高校訪問を行います。

(8) 財務

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|---------------------------|--|------|--|----------|
| ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 近年施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが経費削減等に取り組み帰属収入の確保に努めている。 | 3 | 中長期的には引き続き経費節減。 | 特になし |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。 | 4 | 計画的な予算の立案を実施しているが、光熱費の急激な値上げにより大幅な補正の変更をせざるを得ない状況になっている。 | 特になし |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。 | 4 | 適正に行われている。 | 特になし |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか | 私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。 | 4 | 特に問題ないため継続したい。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

光熱費や設備費の急激な値上げにより大幅な補正の変更をせざるを得ない状況になっているため、令和6年度入学生より年間24000円の値上げを実施する予定です。

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|--------------------------------|--|------|-------|----------|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 自己点検・評価は、毎年見直しを行い、年度末には所属長による改善指示をしており、学校関係者評価による検証も行っている。 3年前に JAMCA による第三者評価を受審し外部からの評価も実施した。 | 4 | 特になし。 | 特になし |
| ・自己評価結果を公開しているか | 自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。 | 4 | 特になし。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

個人情報保護法について職員の理解が低かったため職員研修を行ったが、今後も定期的実施する必要性を感じている。

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|--|---|------|--|----------|
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | コロナ禍ではあるが感染対策を行い中学生整備体験、出張授業など少しずつ実施することができた。環境問題への取り組みとして、エコアクション21の認証を取得し継続的かつ積極的な活動に取り組んでいる。 | 4 | 社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。 | 特になし |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 本年度はコロナ禍で他団体主催のボランティアには参加しなかったが、学生自治活動主催で通学路清掃や交通立哨、などを行っている。 | 4 | コロナ禍で今までのような活動は実施しにくくなっているが、状況に応じたボランティア活動ができる様を検討し実施したい。 | 特になし |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 自動車車体整備技術講習を実施した。 | 4 | 依頼があった講習・講座のみ実施した。これ以上増やすことは本来の教育業務に支障が出る恐れがあるので、次年度も今年と同じ実施要領とする。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

感染対策を実施したうえで With コロナとしてボランティア活動が徐々に実施されることが予想され、学校は学生自治会主導のもと多くのボランティア活動に積極的に参加したい。

(1 1) 国際交流

| 評価項目 | 具体的取組 | 自己評価 | 学校改善案 | 評価委員会の意見 |
|-------------------------------------|--|------|---|----------|
| ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和6年度より入学生定員を60人に増員して受け入れ拡大を実施していく。 | 4 | ・学費や生活費をアルバイトで稼ぎ通学している留学生が多く、昨年度に引き続きコロナ禍でアルバイトが激減したため授業料の支払いに苦労する学生が多く見られた。留学生も対象となる奨学金制度の開拓が必要である。 ・コロナによる留学生の入国規制が緩和されたため、日本語学校に留学生が増加し始めている。 | 特になし |
| ・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか | 留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として適正校認定された。 | 4 | ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。 | 特になし |
| ・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか | 学校組織図に留学生担当生活指導担当を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科のリーダーや教務課長が対応する。 | 3 | 課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり28時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。 | 特になし |
| ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。 産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。 | 3 | 1級試験合格率の向上が続いている。産能大は少数ではあるが順調に卒業生が出ている。また放送大学の在校生も増えた。 | 特になし |

* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・令和3年度留学生の就労ビザ申請において就職斡旋企業については、指定整備工場であること望ましいことが判明した。留学生情報については入管との情報交換を積極的に行っていく必要性を感じている。
- ・令和6年度4月より国際オートメカニック科の学生定員数を40名から60名に変更します。